



53 (信楽町長野) いわの けん 健さん

世界で輝け

サッカーの15歳以下の中学生年代のチーム日本一を争う「JFAプレミアカップ」で信楽中学3年の岩井健さんが所属する京都サンガFCU-15(15歳以下)が優勝し、世界大会への切符を手に入れました。

決勝戦では岩井さんのゴールで、優勝候補の相手チームに競り勝ちました。

優勝した瞬間は決勝でゴールを決められたこと、世界大会に出場できることの2重の喜びがあったと岩井さん。

岩井さんがサッカーを始めたのは小学校1年生。地元のスポーツ少年団に入団されたのがきっかけだそうです。4年生のときに攻撃が主体のフォワードに転向。めきめき頭角を現し、滋賀県選抜や関西選抜にも選ばれました。

フォワードは点を取るのが役割ですが、岩井さんが得意とするプレーは頭を使って得点する「ヘディング」。特にゴールに向かって体を投げ出す「ダイビングヘッド」には自信があるそうです。

世界大会への抱負を伺うと「外国人選手は体も大きく、当たりも強いですが、それに負けずに一点でも多く点を取りたい」そうです。

8月にイギリスで開催される世界大会で、世界の強豪との対戦を楽しみにされている岩井さんの活躍に期待します。



▶試合中ドリブルで相手ゴールへ攻める岩井さん (京都サンガ提供)



みなくち子どもの森夏季特別展

みなくち子どもの森開園10周年を記念して夏季特別展「化石の森から子どもの森へ」〜メタセコイヤの森をアケボノゾウが歩く〜をみなくち子どもの森自然館で開催しています。展示では化石のできかたなどを解説したパネルや、甲賀市などで発見された約230万年前の氷河時代の植物の化石などが紹介されています。また化石の調査から、当時は大きなメタセコイヤなどが茂る森が市内にあったこともわかってきています。子どもだけでなく大人にも充分楽しめる内容になっています。甲賀市の太古に思いを馳せながらご覧いただけます。
・9月19日まで(月曜日休館)
・入館料大人200円 小・中学生100円



▲貴重な化石などが紹介されている特別展

230万年前の化石を紹介

消防団員が園児に花火指導

甲南消防署と市消防団が7月8日、甲南希望ヶ丘保育園で花火指導を行いました。

この日は、避難訓練も行われ甲南消防署員から、園児に安全な避難の方法について指導が行われました。その後、市消防団女性消防隊の指導で、4歳児・5歳児の園児が実際の花火を使って、安全な遊び方を体験しました。

最後に園児たちは「花火は大人と一緒に遊ぶ」「広い場所でやる」「風の強いときはやらない」などの約束を大きな声で確認し合っていました。

園児に花火の持ち方を指導する消防団員▶



元気なまちかど

忍たま集合

子どもたちに人気のアニメ「忍たま乱太郎」の映画版や実写版が相次いで公開されるなど「忍者」が話題を呼んでいます。当市もこのブームをいかし、忍者・忍術の発祥の地をPRしようという「NINJAプロジェクト2011」を今年度スタートしました。

この関連イベントとして7月17日、子どもを対象にした忍術学校「甲賀忍術学園」が忍の里、プララ等で開催され、多くの親子連れが参加しました。参加した子どもたちは、吹き矢や手裏剣投げ、暗号解読などの忍術体験を楽しみました。希望者には忍者衣装も貸し出され、「忍たま」気分での体験を楽しむ子どももいました。

また、甲賀市の「にんじゃえもん」「ぼんぼちゃん」伊賀市の「にん太」「しのぶ」のゆるキャラたちも集合し、会場を盛り上げました。

午後からは事前申込者による「忍術学園体験入学」、実写版「忍たま乱太郎」の公開直前試写会なども行われ、「忍者の里甲賀」を盛り上げる一日となりました。

甲賀忍術学園開催



▲忍者衣装で吹き矢に挑戦する子どもたち



甲賀・伊賀のゆるキャラが集合▶

交通安全子供自転車大会で大原小が優勝

大津市内で7月2日に開催された交通安全子供自転車滋賀県大会で、大原小学校が団体の部で優勝し、見事県大会9連覇を遂げました。この競技は、自転車に関する交通規則や道路標識などの学科テスト、横断歩道や踏切の安全な通過方法や、ジグザクコースをミスなく走行できるかを競う実技テストによって審査されます。児童はこの日のために練習を重ねテストに挑み、伝統校にふさわしい安全運転を披露しました。同校は8月3日に東京有明ビックサイトで開催される全国大会に出場します。



▲優勝した大原小の児童

交通安全の知識、技能を競いV9達成

夜空に舞い上がる炎の柱 矢川神社七夕まつり

恒例の甲南町矢川神社七夕まつりが行われ、甲賀市筒花火保存会による「手筒花火」18本が奉納されました。

火付け役が一本ずつ点火し、観衆から一斉に「わっしょい」の聲がかかると、揚げ手が約10キログラムの筒を持ちあげていきます。花火は高さ10メートルを越え、炎を抱く勇壮な揚げ手のシルエットが浮かぶと辺りは拍手と歓声に包まれました。



▲大迫力の手筒花火

この手筒花火は、今から15年ほど前に旧甲南町の夏祭りでも手筒花火を披露した愛知県の団体との交流がきっかけで始まりました。当時地元有志が5年かけて手筒花火の技術を学ばれた後、保存会が結成されました。

保存会の山本真治さんは、「保存会として花火を奉納して10年ですが、次の世代にも手筒花火のすばらしさを伝えていきたい」と語られました。